

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

明治36年9月20日、京都(七条、祇園)で全国初の乗合バスが運行されたことに因んだ記念日で「バスの日」。しかし、この車は蒸気機関車を改良した定員

6人(運転手・助手・乗客4人)でしかなかった上に、馬車事業者からの反対などで、翌年1月に営業を終わっている。乗合バス事業者数の推移は、昭和50年の364社が令和4年には2397社となり現在は重要な交通手段となっている。貸切バスは平成24年に4536社が令和4年には3556社となり、貸切バス社数の推移が、貸切バスが支える観光地への今後が気がかりになる。

新米の収穫時期、一部の地区では新米が5キで5000円をこえるとの情報。JA大北は令和7年産米概算金(仮渡金)をコシヒカリA・1等紙袋60キ当たり、前年比1方1950円高い2万8240円。あきたこまち「風さやか」も1方1950円高い単価で決定した。

乗合バス路線の存続が地域課題だ

農家にとっては、生産コストに見合う単価と喜びの声が聞えてくるが、物価高騰に苦しむ国民からは、抜本的な農業政策と、意欲と能力のある農業経営による、ひらかれた市場環境による市場原理が求められていくに違いない。

9月上旬、白馬村職員退職者互助会が企画した北陸・金沢への日帰り研修旅行に参加する。11月開通予定の「雨中バイパス」の進捗状況を車中から見ながら、8月21日に車両

渋滞は発生していないことに驚きを覚えた。今後施設老朽化に伴う道路工事の規制は多くなると考えられるが、工事内容を精査して渋滞発生が起きにくい対応を願ってしまう。23日は、昼と夜の時間

間がほぼ同じになる「秋分の日」。秋分の日と前後3日間を合わせた7日間が秋のお彼岸だ。真東から出て真西に沈むこの時期の夕暮れ時、西側の空模様を眺めるだけで色々な事に想いを馳せ、仏教では昔から、真西に「浄土」があると考え、この時期の夕日が「道しるべ」を示すと考えられていた。今年お土産は北陸道・有磯海サービスエリアの罇ずしと願う参加者の多さに観光戦略の重要性を知る。



お土産は北陸道・有磯海サービスエリアの罇ずしと願う参加者の多さに観光戦略の重要性を知る。

もが「平和」であってほしいものだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)